

# — あす盆の入り —

少子高齢化やライフスタイルの多様化を背景に近年、墓参り関連サービスが注目されつつある。忙しい、遠い、高齢になった。さまざまな事情によるニーズを捉えた、墓参代行などが登場。苦小牧でも高齢者の墓参りに連れ添う同行サービスに乗り出す業者も現れ、供養をさまざまな形で支えている。あす13日は盆の入り。



遺族に代わって墓参りする苦小牧の業者

## 代行や同行のサービス増加

苦小牧市系井の家事代行業「ライフスマイル」は今月から、高齢者層をターゲットにした墓参り同行サービスを始めた。墓参の送迎と墓掃除をセットで引き受ける内容で、基本料金は1時間3000円。同行は市内限定で、送迎代は一律900円。

依頼者が同行できない場合は、スタッフが代わりに墓に手を合わせる。

この他、オプションサービスとして「ろうそく・線香のセット」「供花」「写真撮影」をそれぞれ5000円で提供する。

墓参同行を始めたきっかけは、家事代行を利用する高齢者から「足腰が悪くなり、墓参りに連れ添ってくれる親族もいない」という声を多く聞いたから。代表の横山美加さん(26)は「私自身、3年前に父をがんで亡くした。それ以来、悩んだ時にはいつも父の墓前に手を合わせ

せ、背中を押してもらった気持ちになる。お墓に直接足を運ぶことで、お年寄りの方々も気持ちの前向きになれるのでは」と話す。

市内末広町の家事代行業「便利屋あか助」は、7年前に墓参代行サービスを始めた。依頼者の大半は本州に暮らす30〜40代の若い層。実家のある苦小牧で墓を守り続けた両親が亡くなったり、親が高齢や病気でお参りに行けないといった理由が多く、少子化や地方に残る墓参の担い手の減少という現代社会の

### 高齡や多忙、遠距離…社会構造の変化で変わる墓参り

若い世代には意識の薄れも

構造も垣間見える。

同社社長の片岡圭介さん(34)は「若い世代の中で、墓参りそのものに対する意識が薄れているのも事実」と指摘しつつも、「先祖を思う気持ちはいつの時代も変わらない。墓参代行はこれから成長が見込める」と話す。

関連ビジネスは全国的に広がりを見せており、インターネットによる仮想的な墓参りサービスも人気を呼んでいる。

東京の葬儀社「アイキャン」のネットサービスでは、パソコン画面上に故人の墓を持つことが可能だ。マウス操作で花や線香などを供え、画面に向かって手を合わせれば「墓参り」が完了。お経やクラシック音楽を流せる他、故人の写真や略歴の紹介、さらに掲示板機能を使って「記帳」もできる。

費用面などで本物の墓を持っていない人から関心が寄せられており、ネット墓参サービスには同社以外、寺や民間霊園業者も相次ぎ参入するなど競争激化の様相にある。

「ネット墓参」なるものまでも